



Frame&Framings in a transdisciplinary perspective III

国際シンポジウム「フレームの超域文化学—フレームとしての古典—」

2018.3.26 日本台湾交流協会台北事務所

主催：科学研究費 基盤研究 (B) 中近世絵画における古典知の変成と再結晶化—話型と図様

発表言語：日本語 / 要旨集：日本語・中国語

- 9 : 30 ~ 9 : 45 佐野みどり (日本・学習院大学) 開会挨拶
- 9 : 45 ~ 10 : 15 土谷真紀 (日本・お茶の水女子大学)
伝承絵師は何を示すのか—金山天王寺縁起絵巻を例に
- 10 : 15 ~ 10 : 45 松本祐未子 (日本・学習院大学)
乾山焼に見る古典—その多様性と戦略性
- 11 : 00 ~ 11 : 30 フランク・フェルテンズ (米国・フリーア美術館)
墨と金の摩擦：フリーア美術館所蔵の雲谷等益筆『瀟湘八景図屏風』について
- 11 : 30 ~ 12 : 00 増記隆介 (日本・神戸大学)
「平家納経」と『源氏物語』—古典としての藤原道長—
- 12 : 00 ~ 13 : 30 -----昼休憩----- (室内飲食禁止)
- 13 : 30 ~ 14 : 00 青木慎一 (日本・立教大学)
『源氏物語』と近世中期の源氏絵—フルテキストでの制作と古典知—
- 14 : 00 ~ 14 : 30 梁蘊嫻 (台湾・元智大学)
『絵本通俗三国志』における明治時代の出版状況の一考察
- 14 : 45 ~ 15 : 15 蕭涵珍 (台湾・中興大学)
歌舞伎『阿国御前化粧鏡』にみる「牡丹灯記」の影響
- 15 : 15 ~ 16 : 00 ディスカッション (質疑応答 日本語 / 中国語)